

9.5 世界天文年 全国同時七夕講演会

2009年は世界天文年ということで、様々なイベントが各地で予定されていたが、日本天文学会でも世界天文年を盛り上げるための催しものとして、七夕の日に全国同時講演会を開催してはどうか、との提案が評議員会で出された。この提案により、日本天文学会と天文教育普及研究会と共催で、「全国同時七夕講演会」を実施することとなり、その事務局を花山天文台が担い、各講演会企画者との連絡や広報、アンケートの集計等を行なった。

講演会の情報は「全国同時七夕講演会」のWebページ¹で公開し、日付や場所等で検索できるようにした。また、「全国同時七夕講演会」の広報用のポスター(A2判2000枚)とちらし(A4判10000枚)を作成し、各講演会の会場へ配布した。ポスター、ちらしのデザインは京都精華大学デザイン学部の豊永政史准教授に依頼し、デザイン・印刷等の経費は日本天文学会から支出した。報道機関への働き掛けとして、日本天文学会による記者発表を東京八重洲ホールで6月13日に実施した他、京大記者クラブを通じて報道機関へ連絡し、読売、朝日、毎日、日経、時事通信、京都、赤旗、徳島の各新聞で七夕講演会について報道された。

実際の講演会は7月3日(金)～7月12日(日)の10日間にわたって行なわれた。講演会の数が多いのは7月7日(火)56講演、7月4日(土)19講演、7月11日(土)7講演などであった。企画に「七夕」とあるので、7月7日に実施したところや、参加者の集まりやすい週末に実施した会場が多かった。附属天文台関係者による講演会は、枚方市立サンブラザ生涯学習市民センター(柴田一成, 7/4)、岸和田市総合福祉センター(北井礼三郎, 7/7)、枚方市立津田生涯学習市民センター(柴田一成, 7/7)、花山天文台(野上大作, 7/7)、飛騨天文台(一本 潔, 7/7)の各会場で行なった。

講演会主催者を対象に行なったアンケートでは、65会場から回答があり、回答のあった会場で参加者総数は4600人であった。また、実施にあたっては「広報の方法、ルートがよく分からず苦労した」、「参加人数が事前に読めずに会場の選定に苦労した」等の感想が寄せられた。

各講演会会場で参加者を対象に行なったアンケートでは、48会場2067名から回答があった。10歳未満から80歳以上まで幅広い年齢層の参加者があり、講演のおもしろさや難易度などから判断すると、満足度は良好だった。参加者からの要望としては、「レジュメなど配布資料があるとよかった」、「もっと参加しやすい日時に実施してほしい」、「広報にもっと力を入れるべき」等があった。また、今後参加したいイベントとしては、同様の天文関係の講演会や、実際に星を見る観望会を希望する声が多かった。天文の講演会に初めて参加したという参加者が多かったようだが、おおむね好評であり、多くの方々の協力により全国同時七夕講演会全体として成功だったと言える。参加者からは来年もぜひ実施してほしいとの要望もあり、2010年度も同様の企画が実施された。また、2011年度以降は天文学会の正式な行事として継続する予定となっている。

(前原 裕之 記)

¹<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/tanabata/>